

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

# エコシティ志木通信

2019年9月1日  
(No. 95)

2019  
\*  
9月

NPO法人エコシティ志木  
代表理事 天田 眞  
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (23)

## 新河岸川 (九十川合流点)

福岡河岸跡がある養老橋の一つ上流の川崎橋の上流左岸側から流入するのが九十川。川越市街地の東方にある伊佐沼から流れ出し、かつては新河岸川の源流だった川。元々はもう一つ上流の旭橋のところで合流していたが、昭和初期に直線化され現在の合流点になった。1998（平成10）年8月の台風で、合流点から上流の新河岸川・九十川がともに越水し3,800戸程が浸水したのを受け、樋管と排水機場が設置された。写真は九十川最下流で、左手の樋管の向こう側が新河岸川。普段は樋管を通して流れているが、新河岸川が増水するとゲートを閉め、右手後方の排水機場からポンプで排水する。（天田 眞）

当日は午前9:00に志木市役所に集合し調査開始となりました。例年では志木中の科学部の皆さんと一緒に調査するのですが、この日は学校が修学旅行と言うことでご一緒出来ませんでした。したがって今回は当スタッフ7名だけの調査となりました。採水場所は、いろは橋・宮戸橋・志木大橋・栄橋・荒川秋ヶ瀬取水堰・こもれびのこみち湧水・郷土樋管（東中央幹線）の7ヶ所でした。スタッフ各人が1ヶ所づつ責任を持って担当し調査をしました。採水はその場の気温・水温の測定と共洗い（3回）と周辺の臭気・ゴミ等の確認と周辺の状況の調査をしました。採水後、志木中前の柳瀬川土手でパックテストでの測定を行いました。内容は、水素イオン濃度（PH）・電気伝導度（EC）・化学的酸素消費量（COD）・亜硝酸性窒素（NO<sub>2</sub>-N）アンモニア性窒素（NH<sub>4</sub>-N）の測定です。最後に透視度の測定を行いました。今回は中学生の参加がなく残念でした。この全国一斉調査は“自分たちで調べて環境保全につなげよう”が1つの目的であり、毎年継続してその実態を知り、水環境の保全・修復を考える人を1人でも増やしていこうとするものと思います。土手を歩く人が我々の作業を訝しげに見て何をしているのですかと聞く人もおりました。



[写真：青木 明雄]

荒川秋ヶ瀬の取水堰での採水は釣り人がズラリと場所取りをしており、バケツを投げるのが憚れます。今回は少し上流で採水しましたが、チョット危険でした。また、モーターバイクが水をかき回しているの測定に少し心配があります。次回は採水場所を検討する必要があると思いました。（松田 勝正）

## 2019年度の測定結果と考察

6月2日（日）午前実施

（天田 眞）

### ● 調査地点（採水地点）：7か所

新河岸川：いろは橋（柳瀬川合流前）・宮戸橋（同合流後）

柳瀬川：志木大橋・栄橋

荒川：秋ヶ瀬取水堰（堰上流の取水口の upstream）

湧水：いろは親水公園こもれびのこみち

東中央幹線（宗岡の雨水排水路）：郷土樋管（いろは橋と宮戸橋の中間で新河岸川に流入）の堤外側

### ● 測定方法：試水を1か所に集めて同時に測定

### ● 測定項目

気温・水温：採水地点で測定

pH（水素イオン濃度）：0～14までの指数で、7が中性、

それより高いとアルカリ性、低いと酸性。

EC（電気伝導度）：水中の無機イオンの量を電氣的に測定する。不純物が多いと数値が高い。

COD（化学的酸素消費量）：酸化剤で有機物を酸化した時に消費した酸素の量。数値が高いほど有機物が多い。

NH<sub>4</sub>-N（アンモニア性窒素）・NO<sub>2</sub>-N（亜硝酸性窒素）：窒素を含んだ汚染源がアンモニアになり、これが水中で酸化され亜硝酸に、さらに酸化されると硝酸になる。

透視度：透明なパイプに測定水を満たし上から覗き込み、中の十字指標を動かして見えなくなるまでの深さ。

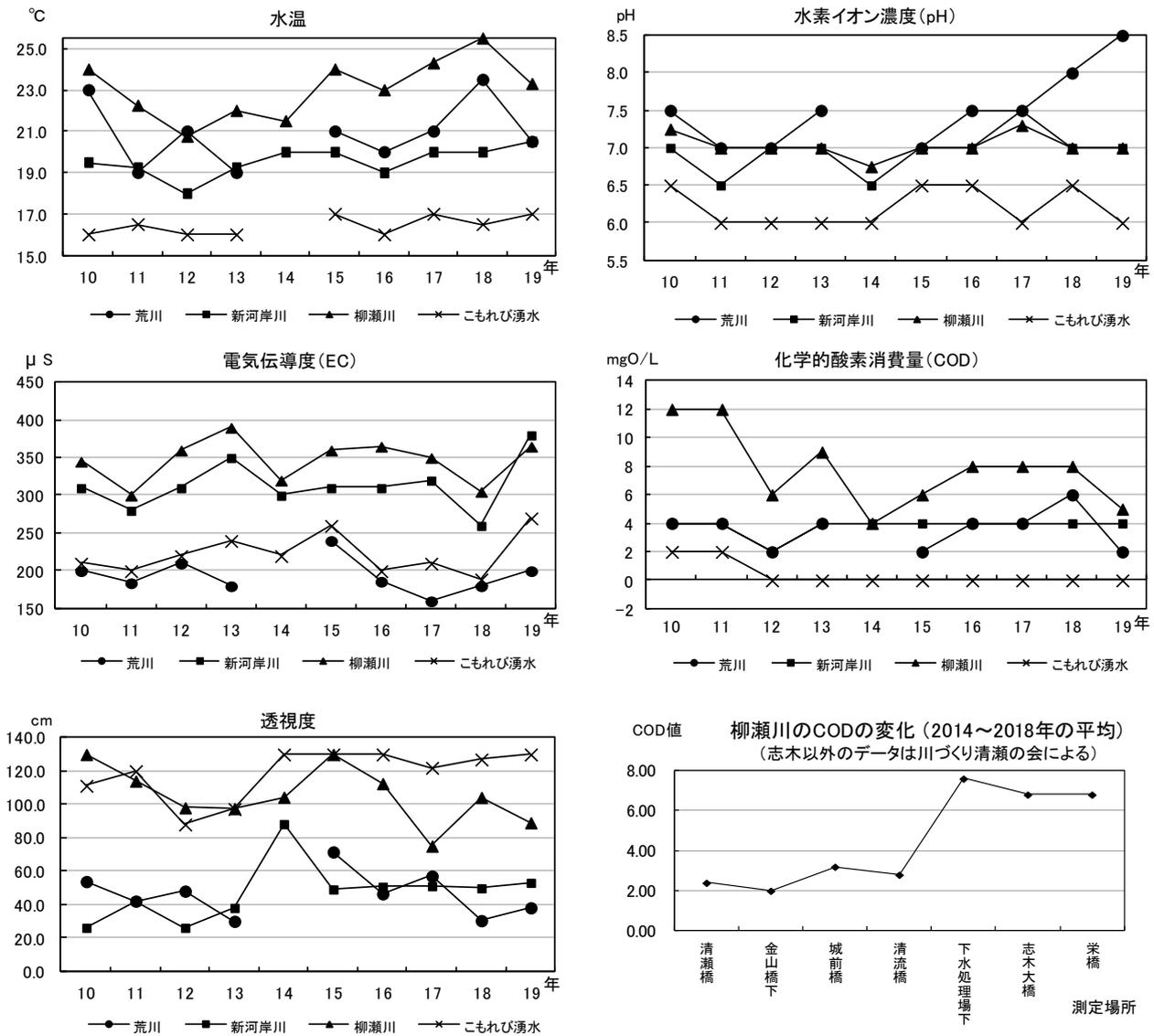
※pH、COD、NH<sub>4</sub>-N、NO<sub>2</sub>-Nはパックテスト

## ■ 2019年の測定結果と過去5年間（2015～2019）の平均値

採水地点	測定項目	水温 ℃		pH		EC μS/cm		COD mgO/L		NH <sub>4</sub> -N mg/L		NO <sub>2</sub> -N mg/L		透視度 cm	
		19年	平均	19年	平均	19年	平均	19年	平均	19年	平均	19年	平均	19年	平均
柳瀬川	志木大橋	23.0	24.0	7.0	7.1	370	349	6	7.0	0.2	0.73	0.02	0.23	71	102
	栄橋	23.5		7.0		360		4		0.2		0.02		107	
	新河岸川いろは橋	20.5	19.9	7.0	7.1	380	316	4	4.0	0.2	0.48	0.10	0.06	53	51
	新河岸川 宮戸橋	22.8	22.6	7.0	7.1	400	338	4	5.6	0.2	0.54	0.05	0.24	89	76
	荒川秋ヶ瀬取水堰	20.5	21.2	8.5	7.7	200	193	2	3.6	0.2	0.32	0.02	0.02	38	49
	こもれびのこみち湧水	17.0	16.7	6.0	6.3	270	226	0	0.0	0.2	0.12	0.005	0.004	130以上	130以上
	東中央幹線	20.5	21.0	7.5	7.5	360	325	4	5.0	0.2	0.14	0.1	0.03	69	76

※ 各測定項目の左欄に2019年の値、右欄に過去5年間（2015～2019年）の平均値。柳瀬川は志木大橋・栄橋の平均とした。

■ 2010年～19年 主な測定項目の主な採水地点別の経年変化 柳瀬川は志木大橋と栄橋の平均値



● 過去10年間の結果から見る主な測定項目ごとの傾向

**水温:** 柳瀬川は清瀬水再生センター（下水処理場）の放流水の影響で高い。こもれび湧水は地下水の特徴で年間通してあまり変わらず、この時期としては河川水より低くなる。

**pH:** こもれび湧水は武蔵野台地の湧水の特徴で酸性気味。新河岸川・柳瀬川は中性付近。荒川は以前からアルカリ性気味だったが、去年・今年と強アルカリ性になってきた理由はわからない。

**EC:** 高い方から柳瀬川→新河岸川→こもれび湧水→荒川。ただし今年に限っては、新河岸川が柳瀬川より高かった。こもれび湧水の値が必ずしも低くないのは湧水の特徴で、汚れが多いわけではない。

**COD:** 柳瀬川は清瀬水再生センターの影響で常に高い。今年は過去に比べて低くなったが、理由はわからない。こもれび湧水は0が続いている。

**透視度:** こもれび湧水は非常に高く、柳瀬川がこれに続く。新河岸川と荒川は低い。

● 過去10年間の結果から見る河川・調査地点の水質の傾向

**柳瀬川【志木大橋・栄橋】:** 透視度が高く、きれいな印象。EC・COD・チッソ分も高く、見かけほど水質は良くない。柳瀬川は清瀬市の金山調節池付近が最も水質が良く、その下流で下水処理場の放流水が入るとぐっと悪くなる。

**新河岸川上流【いろは橋】:** 透視度が低く、汚れた印象。EC・CODは柳瀬川より低く、水質は見かけほど悪くない。

**新河岸川下流【宮戸橋】:** 概ね、合流前の新河岸川・柳瀬川の中間の数値を示す。

**荒川【秋ヶ瀬取水堰】:** 東京都と埼玉県の上水道の原水ではあるが、特別に水質が良いということはない。

**こもれびのこみち湧水:** 透視度は最高、COD・チッソ分は最低で非常に良好な水質。ECが高いのは湧水の特徴。

**東中央幹線:** 今回で2回目で特徴がはっきりしないが、流入先の新河岸川宮戸橋の数値に近い。

## 志木ぶらり散歩

～幸町・柏町の野火止用水分水などの『水跡』を歩く～（6月23日）

分水跡や旧河川跡については、部分的には当会の自然観察会等で教えていただく機会が多かったです。今回の天田代表による案内や資料で、それらをつなぎ合わせて全体を見渡せた気がします。

愛宕通りから右に分かれ中道通りを進んでいた分水。現在は東上線によって分断されているその跡を、幸町のマンション脇で確認、さらには中道側から確認したり、坂下橋の水車の位置を検証したり、貴重な経験ができました。

全13人の散歩でしたが、参加者の方々の知識・関心の深さにも驚かされました。質問をすると、あちこちから説明が返ってきました。大塚には、かつて崖や滝があり、周辺が「地獄谷」と呼ばれたのは、室町期にあった修験道の中心地「十玉坊」がなまったもの云々。

野火止用水を渡すために新河岸川に架けられた「いろは樋」は、明治31年、兩岸の煉瓦柱とそれを繋ぐ鉄管により川を潜る伏せ越し式に改築。市場坂上交差点脇に保存されている現物の鉄管の前では、製造地であるベルギーのリエージュの刻印と、消し残された当時の東京市市章があることをご存知の参加者の方が説明して下さいました。

（庭野 恵子）



[写真：青木 明雄]

## 柳瀬川水族館

（柳瀬川の生きもの調査）

今年最初の柳瀬川水族館は、6月16日（日）に開催されました。

親子連れの方々や散歩・ジョギング中の老若男女が、物珍しそうに足を止めて水槽を覗き込み、「先ほどこの柳瀬川で採ってきたものですよ。」と説明すると、こんなにたくさんの魚やエビ類がこの川に棲んでいることに驚かれる人も多かったようです。

ヌマチチブ・ウキゴリ・シマドジョウ・ナマズ・モツゴ・カダヤシなどの魚類や、テナガエビ・ハグロトンボのヤゴ・シロハラカゲロウやサホコカゲロウの幼虫・カワリヌマエビの仲間等々、多くの水生生物を採集することが出来ました。

昨年も参加した小学生の男児が母親と朝早くから訪れ一緒に魚取りをしたのですが、カワリヌマエビやウキゴリなどがタモに入っていると本当に嬉しそうでした。分類展示した大小6個の水槽も興味深そうにいつまでも覗き込んでいました。

私は今年初めて参加したのですが、川岸の草むらに狙いをつけ、川下にタモを置き、足で追い込み、タモを引き揚げ魚が入っていると、年甲斐もなくうれしいものです。子供の頃に田舎の小さな川で友達と一緒に魚とりに興じていた頃を懐かしく思い出すひと時でした。

（畠 光男）



[写真：青木 明雄]

## 柳瀬川であそぼうは中止となりました

7月28日(日)に予定していた「柳瀬川であそぼう」は、またもや台風の影響により、中止となりました。とても残念ですが、これで3年続けての中止となってしまいました。今年は大丈夫と思っていたのですが、台風は関西に上陸し、日本海に抜けるコースにもかかわらず、前日夜間にかなりの雨が降ったため、かなりの増水となりました。前日朝の感じでは、それほど影響なく実施できる見通しでしたが、昼頃の大風情報から判断して中止としました。過去の経験からしても、中止の場合の参加者への連絡が大変な為、早めの中止決定としました。想定通り柳瀬川は増水していて、入る事はできませんでした。

今回も、予定としては、河川敷でのゴミ拾い、ササ舟を作って流す、魚捕り、川を渡るといったプログラムを用意していました。この日は、キャンセルを除き29人の小学生の参加で、定員を超えていましたが、対応することとしていました。来年、また申し込みをいただければありがたいのですが、今回は、スタッフも新しく2名が参加し、



事前に、柳瀬川水族館の際に、川の中を歩いたり、魚捕りの練習を行いましたので、楽しみにしていましたが、とても残念でした。来年こそは、晴れて楽しく実施したいと思います。

(青木 明雄)

## 竹の子エコクラブ

～水生生物調査と魚捕り～8月3日(土)

『竹の子エコクラブ』の柳瀬川の生きもの調査は、去年は台風で中止でしたが、18年前から毎年実施しています。この団体は三芳町竹間沢地区を中心とした『こどもエコクラブ』(全国で1,670団体)で、県内では最も盛んに活動しており、県代表として全国フェスティバルに何度も参加しています。

この柳瀬川の活動では、環境省の『全国水生生物調査』に参加しており、今年も魚捕りの前に水生生物調査を行いました。この調査は、水深の浅いところで、石の裏に張り付いている虫や、石の間に棲んでいて、石を外すと水流で流される虫を、目の細かい網で捉え、捕まえた虫が入った水を堤防上の日陰に持ちより、浅いバット(トレイ)に広げ、分類・調査します。中には大きな虫もありますが、大部分は1cm以下の小さな虫です。どのような生きものがあるかで水質の判断ができます。

今回見つかった主なものは、サホコカゲロウ・シロハラコカゲロウ・シロタニガワカゲロウ・ヒゲナガカワトビケラ・ウルマーシマトビケラ(以



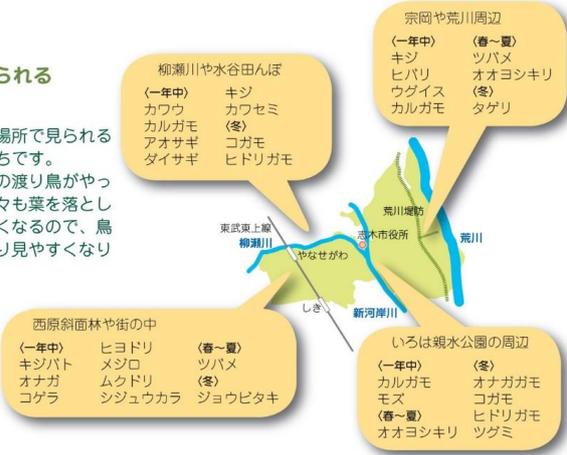
上は昆虫の幼虫)・ミズムシ・シマイシビル・アメリカツノウズムシなどです。

水生生物調査の後には通常の「ガサガサ」による魚捕りを行い、酷暑のため、予定より少し早く終了となりました。

(天田 眞)

鳥がよく見られるおもな場所

市内のおもな場所で見られる代表的な鳥たちです。冬期には多くの渡り鳥がやって来ます。木々も葉を落として見通しがよくなるので、鳥たちの姿がより見やすくなります。



オカヨシガモ

カモ科〈冬鳥〉全長 50cm  
 渡りをするカモの中では珍しくオス(写真手前)も地味な色。灰白色の体に黒いお尻という淡い配色。メスは褐色でマガモのメスに似ている。数は少ないが、柳瀬川にも飛来することがある。



ヒドリガモ

カモ科〈冬鳥〉全長 49cm  
 志木周辺では、冬渡ってくるカモの中で最も多い。よく集団で河川敷に上がり草などを食べている。オスの額から頭上はクリーム色で、それ以外の頭部は茶褐色。この茶褐色を「緋色」に見立てて「緋鳥鴨」という。

特集 志木生きもの図鑑紹介(2)

水辺の生きもの他  
 魚類・甲殻類  
 ほ乳類・鳥類

チームリーダー

毛利将範

Bチーム

ほ乳類

ほ乳類は8種掲載しました。アブラコウモリは夕暮れの住宅街などで見かけられますが、なにしろ飛び回っているので撮影チャンスはなかなかありません。アズマモグラも「モグラ塚」はあちこちにあり身近なほ乳類ではありますが、その姿にはほとんどお目にかかることはできません。不本意ですが両種ともご遺影の掲載となりました。

カヤネズミは限られた場所では巣が見つかり、生活痕はあるものの姿は見せてもらえません。何者かに襲われたらしい無念の写真が1枚だけ手元にありますが図鑑に掲載するには気の毒なのでやめました。



頭部をかじられたカヤネズミ

ニホンイタチは水谷田んぼなどで昼間も活動しているので運が良ければ会えます。ある時、アカネズミをくわえて目の前に出てきました。一度に2種のほ乳類に会えるという幸運でしたが、この写真も図鑑には掲載していません。

Bチームの担当分野と執筆者は以下の通りです。  
 ●ほ乳類(宇津木美恵子) ●鳥類(毛利) ●魚類(伊藤智明) ●甲殻類(伊藤) ●カメ(宇津木)  
 ●カエル(伊藤) ●ヤゴ(毛利) ●カゲロウやトビケラなど(毛利/資料提供:天田眞)

Bチームのメンバーは仕事の都合などで、全体会議やレビューに常時参加することがむずかしい人が多かったので、原稿作成・校正などをメールで対応してもらいました。分野別に記述された文章表現の統一では山口美智江さんから、また途中からメンバーに加わった本間敏文さんからは、自然観察指導員の経験上からの貴重なアドバイスを多く頂きました。

写真は私がおもに担当しましたが、ほ乳類では、撮影機会がなかったアライグマを志木市環境推進課に、アザラシを青木明雄さんに提供してもらいました。また、鳥類では山崎光久さんに、魚類は伊藤さんに、水辺の生きもののカゲロウの仲間からタニシの仲間などまでのほとんどやヤゴなどの多分野にわたって天田さんに、私の手持ちになかった種について貴重な生態写真を提供してもらっています。



アカネズミをくわえたニホンイタチ

## 鳥類

市内には3本の川があることから水辺の鳥が多く、林の鳥は少なめなのが特徴です。その中でよく見かけられる75種を紹介しています。

ワシタカ類は水谷田んぼと柳瀬川周辺の自然の豊かさを象徴する種でもあるので写真記録があるほぼ全てを載せました。上空でカラスに追われていたり、鉄塔で休んでいたり、意外と多くの猛禽が志木を訪れているのです。

シギ・チドリの仲間であるムナグロやダイゼンなどは渡りの時期に荒川堤外で観察されますが、定期的な調査ができていないので掲載できませんでした。また、フクロウの仲間や、水谷田んぼで繁殖しているかも知れないヒクイナやバン、タマシギなども観察例が少ないので掲載を見送りました。



バン (絶滅危惧Ⅱ類)



ヒクイナ (絶滅危惧ⅠA類)



タマシギ (絶滅危惧ⅠA類)

## 魚類

魚類は流域ネットワークの支援を受けて20年以上前から柳瀬川で定期的な調査を始め、蓄積されたデータから30種掲載しました。そのころからアユの遡上も話題になり始め、投網を使った捕獲調査では、アユを始めボラやウグイ、オイカワ、スズキなど流れの中央を泳ぐ種が観察できました。清瀬水再生センターからの汚水浄化水の放流はあるものの、下水道整備の進展や東川からの汚水浄化水が地下化されたことによる水質改善、浚渫工事や増



## ヒト

ヒト科 体長約150～180cm  
雑食性。大脳が発達し好奇心が強い。集団で行動することが多く、自然界を探索したり、利用したり、破壊したりしつつ高度な文明を築いてきた。近年、日本では少子高齢化が進む。身近な生きものに関心を持ち、生きもの図鑑をつくる。

水などの影響による流路の変化などにより、よく観察できる魚種は少しずつ変わってきています。

## 甲殻類

甲殻類は6種掲載しました。テナガエビやモクズガニは柳瀬川でよく観察でき、東京湾と志木が川で繋がっていることを象徴する種です。サワガニとアメリカザリガニは、どちらもいろは親水公園の湧水の流れで撮影したものです。

## 水辺の生きもの

川遊びや水辺での総合学習、プールのヤゴ救出作戦などで本図鑑が活用されることを意識して、以下を「水辺の生きもの」としてまとめて掲載しました。

### [カメ・カエルの仲間]

市内で見かけるカメのほとんどは外来種のアカミミガメ(幼体をミドリガメという)ですが、クサガメやニホンスッポンも柳瀬川周辺で観察されており、3種掲載しました。

カエルは、最も身近なニホンアマガエルをはじめ市内で見かける4種を掲載しました。

### [ヤゴ]

市内小学校で開催される「プールのヤゴ救出作戦」でよく見つかるアキアカネのヤゴや柳瀬川でよく捕獲されるハグロトンボのヤゴなど8種を掲載しました。

### [カゲロウやトビケラの仲間など]

水が澄んでいて砂礫の多い柳瀬川や湧水、学校のプールなどでよく観察されるカゲロウの仲間や貝類など18種を掲載しました。

## ヒト

最後に、ほ乳類で最も大事な種「ヒト」。宇津木さんが原稿を作成してくれましたが図鑑には掲載しませんでしたので、ここにご紹介して、Bチームからの報告を終わります。

## 外来植物駆除

### いろは親水公園カヤネズミ原っぱ

カヤネズミ原っぱのオオブタクサがかなり蔓延ってしまい、駆除作業が追い付かないため、今年度は毎月1回の作業から2回の作業にしました。作業期間は、5月から8月とし、合計8回の計画としましたが、7月7日(日)は雨の為中止となったため、結果として7回の作業を行いました。

また、やり方として、以前は、オオブタクサが多い場所を探して、点々と行っていましたが、残念ながら、あまり効果が見えてきませんでした。今回は、上流側の富士下橋に近い方から下流に向かって抜き取っていきました。抜き取ったところも、次回には、また生えてきますので、また上流側から抜いて行き、更にその先に進んでいくことにしました。つまり、上流側から生えているオオブタクサを徹底的に抜き取っていくことにしました。抜き取った後には、ヨシやオギが沢山生えてきました。地下茎のある部分です。オオブタクサが密集していて抜き取った所は、カヤもあまり生えてきません。今後、地下茎が伸びて来るのを待ちた



いと思います。延べ人数は、70人でした。このうち会員は49名、社協からのボランティアは21名でした。抜き取った本数は85,000本でした。

(青木 明雄)

## 外来植物駆除

### 柳瀬川右岸

今年も、5月から8月にかけて、志木中学校前の柳瀬川河川敷で、月一回の会員による駆除作業と、7月の志木中学校との協働駆除が予定されていましたが、これまでの継続的駆除の成果か、明らかにオオブタクサが減少、毎年恒例の志木中学生徒達との作業は中止となりました。

7月初旬には、例年通り草刈りが行われ、高水敷も土手の法面もきれいに刈り取られ、高橋方向に丈高く繁茂していたオオブタクサの姿も無くなっていました。

7月は雨天中止、8月11日の会員による駆除は、猛暑日ながら、時間を短縮し、木陰での休憩・水分補給を挟みながら行われました。土手の法面には、早くもオオブタクサが密生。草刈り後、一斉に生え出す土壌中の種子、その繁殖力の強さを改めて感じます。とりあえず法面はそのままに、水際のため刈り残され、3-4メートルの高さになったものが種をつける前に駆除。格闘して抜き取れるものもありますが、多くは鋸を使った駆除となりました。終了後、土手から眺めると、川沿いに樹木のように連なっていたオオブタクサが消えてすっきりした川岸になっていました。



〔写真：青木 明雄〕

『生態系被害防止外来種の駆除・拡散防止』はまだまだ必要なようです。

(庭野 恵子)

① サワガニ 6月1日

こもれびのこみちの湧水で。[天田 眞]



① サワガニ



② オカモノアラガイ

② オカモノアラガイ (絶滅危惧Ⅰ類) 8月3日

柳瀬川水際の植物で。[天田 眞]

③ キノコが多種・大量に発生。7月の梅雨の長雨の頃。[天田 眞]

志木中学校前の柳瀬川堤防に今年春に敷いた剪定枝チップから。

④ カブトムシが大量に羽化 7月頃 [天田 眞]

志木中学校前の柳瀬川堤防に今年春に敷いた剪定枝チップから。剪定枝チップに幼虫が入っていたのが羽化。鳥に喰われたか、腹部が無く頭部だけの個体が多数転がっていた (100頭くらい)



④ カブトムシ



③ キノコ

⑤ キツネノカミソリ 8月17日 [青木 明雄]

こもれびのこみちの斜面林にて。まだ咲いていた。

⑥ モンキチョウ [青木 明雄]

オス：こもれびのこみち 8月17日

メス：白っぽい。志木中学校前柳瀬川河川敷にて。 8月18日

⑦ シオカラトンボ 8月17日 [青木 明雄]

こもれびのこみちの池。

③ モンキチョウ



④ カブトムシ



⑤ キツネノカミソリ

⑧ ハグロトンボ

柳瀬川河川敷

8月18

[青木 明雄]



オス



メス



⑦ シオカラトンボ



⑧ ハグロトンボ

## 会員紹介 林 秀樹さん

皆さん、こんにちは。2014年の新春の頃、当会に入会した「林秀樹」と申します。早速ですが、この写真なんだと思いますか？ 実はこれは、皆さんが大嫌いなゴキブリの顔のアップ、正確にはクロゴキブリ成虫の頭部の拡大写真です。なんでこんな写真をお見せし



たかという、私が長年勤めていた会社にはこの嫌な虫がたくさんいたからです。何とも不衛生で、働きにくい会社だと思われたかもしれませんが、実はこの会

社はゴキブリなどの嫌な虫を生業としていました。私は数年前にその会社を定年退職したのですが、その会社の名前は「アース製薬」と言い、殺虫剤、オーラルケ



ア製品、入浴剤などの家庭用日用品を製造販売している会社でした。そのようなわけで、会社の研究所の生物飼育棟では、ゴキブリ 100万匹、蚊とハエが10万匹、ダニ 1億匹など、約 100種の害虫が飼育されており、商品開発や生態研究などに使われていました。私自身はこれらの害虫を直接扱っていたわけではありませんが、門前の小僧のように、まあそれなりに詳しくなってしまったというわけです。話が嫌な虫の方にそれてしまいましたが、私は石川県の白山市という田園風景の広がるのどかな町で生まれ育ちました。自然豊かなところで育ったにもかかわらず、自然の動植物に対しては、先ほどの嫌な虫たちとは異なり、あまり知識がなく、エコシティ志木の先輩諸氏に教を請いながら、活動を続けている次第です。今後ともよろしくお願いいたします。

☆会員状況

2019年度更新済 (8月19日現在)

正会員 (個人) 32  
 正会員 (団体) 2  
 賛助会員 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2019年度の継続更新を、引き続きよろしくお祈りします。

■当会の団体正会員

志木おやこ劇場  
 生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場  
 いろは遊学館利用者の会  
 志木市コミュニティー協議会  
 志木市社会福祉協議会  
 柳瀬川流域ネットワーク  
 新河岸川水系水環境連絡会  
 新河岸川流域川づくり連絡会  
 柳瀬川流域水循環再生市民懇談会  
 彩の国南西部地域NPO連絡会  
 川の国応援団  
 埼玉県生物多様性保全活動団体登録  
 彩の国みどりのサポーターズクラブ  
 志木市公園美化活動会  
 志木市放課後子ども教室りんくす  
 志木市教育サポートセンター  
 市内小中学校

情報満載！  
 当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木  
<http://kappa-no.net/eco-shiki/>  
 志木まるごと博物館河童のつづら  
<http://kappa-no.net/>

<『生きもの図鑑』作業状況>

入稿用原稿完成まで、あと一步！

青木 明雄

生きもの図鑑は、来年2月の刊行を予定しています。四校版の確認を7月末に終了し、8月末には、五校版が出来上がります。とにかく掲載種が多い為、一種ずつ網羅的に確認するには、かなりの時間がかかります。また、レビュー確認の途中で、全体に関係する項目も出てくるため、更に手間がかかります。表現の統一の例としては、「行う」という表現がありますが、レビューの中で、「行なわれ」、「おこなうとともに」、「行われます」、「行われていないため」という様な表現が使われていました。議論の結果、「行う」、「行われる」という表記に統一することとしました。同様に、「又は」と「または」の使い方も考え方を統一しました。四校版のレビューでは、写真の中に書き込んである説明文(キャプション)を全てレビューしました。ここでも表現の統一や必要性等を議論しながら決めていきました。ただ、明瞭度に欠けるPCプリンターでの印刷の為、必要に応じて虫眼鏡等での確認になりました。最後に索引項目ですが、掲載種名のみならず、キャプションに現れてくる項目や一般的な名称も加えて載せてあります。例えば、「ニホンアマガエル」は、「アマガエル」でも索引できるように「アマガエル→ニホンアマガエル」と載せてあります。9月に五校版で、修正項目が正しく反映されているかの確認と画像の差し替え確認を行い、11月には、入稿し、印刷物での校正作業に入ります。

マカメヤナギ→マレバヤナギ---68  
 アシタガバエの仲間---147  
 さくいん  
 アミガサグテ---80  
 イヌザクラ---65 (文中およびキャプション)

ア	アイガモ	89	アスマネザサ	79	イヌザクラ	65
✓	アオオサムシ	143	アスマヒキガエル	183	イチョウ	71
✓	アオキ	76	アスマモグラ	84	イトトンボの仲間	185
✓	アオクサカメムシ	160	アゼナルコ	32	イトモ	189
✓	アオグサ	100	アトジロエダシヤク	124	イヌキクイモ	35
✓	アオサギ	91	アトリ	106	イヌシデ	66
✓	アオジ	107	アブラコウモリ	84	イヌシデメフクレフシ	173
✓	アオスジアゲハ	115	アブラゼミ	166	フクレダニ	37
✓	アオスムカデ	110	アブラムシの仲間	168	イヌタデ	51
✓	アオダイショウ	86	アマガエル→ニホンアマガエル	183	イヌホオズキ	45
✓	アオドウガネ	134	アマサギ	91	イヌホオズキとアメリカイヌホ	45
✓	アオバハゴロモ	164	アミガサハゴロモ	164	ウススキの淵い	45
✓	アオマツムシ	156	アミメアリ	152	イヌムギ	33
			アミメカゲロウの仲間	159		

ゾウムシは甲虫の仲間で植物食。体長数mm～15mm位の小さな虫。体の外郭は硬く、口の部分(口吻)が長く伸びているのでゾウムシと名付けられています。長い口吻は植物組織に穴を穿って産卵するためのものですが、そのような産卵習性がない種の口吻はさほど長くなく太くなっています。

コフキゾウムシは5mmくらいで粉をふいたような薄緑色。クズなどのマメ科植物の葉の縁をぎざぎざ(リアス式海岸のよう)に食べます。なぜか交尾中が多いです。

カシワクチブトゾウムシも5mmくらいで灰褐色。クヌギなどブナ科樹木の葉を食べます。

オジロアシナガゾウムシは1cmくらいで白と黒の2色に分かれ鳥の糞に擬態しています。クズの葉や茎の上にいることが多く、長い口吻でクズの茎に傷をつけ産卵すると、その部分が虫こぶになり、その中で幼虫が育ちます。危険を感じると落下し、死んだふりをします。

9月頃、コナラの青いドングリを付けた枝先が落ちていることがあります。枝の切り口は直角にきれいに切れています。これはハイイロチョッキリがドングリに産卵し、それを枝ごと落としたものです。体長8mm位の灰色で、長い口吻でドングリの殻斗(お椀)に穴をあけ産卵します。

オトシブミは葉に切れ目を入れ、巻きながら中に産卵し揺籃(ゆりかご)をつくりまわります。幼虫はこの葉を食べて育ちます。揺籃づくりでの葉の切り方、巻き方、最後に切り落とすか、落とさないかは種によって異なります。エゴツルクビオトシブミはエゴノキの葉を、ヒメクロオトシブミはコナラ・クヌギなど多種の葉を使います。

# ゾウムシとオトシブミの仲間



コフキゾウムシ



カシワクチブトゾウムシ



オジロアシナガゾウムシ



ハイイロチョッキリ



ドングリの産卵痕と枝の切り口



エゴツルクビオトシブミ



エゴノキの枝先の揺籃



ヒメクロオトシブミ



クヌギの葉の揺籃を開いたところ

# 巨樹との出会い

## 《1》巨樹とは？

本間 敏文

こんにちは、日頃は皆様方には大変お世話になっております。さて、宇津木様、長きに亘り「小笠原の旅シリーズ」を執筆されましてお疲れさまでした。これからは、私の好きな巨樹について語っていきたいと思いますので、しばらくの間お付き合いして頂ければ幸いです。

ところで、巨樹と言っても、それなあに！と思っただけじゃあいかぬかと思つてしまいます。それでは、巨樹とは何なのでしょう？皆さんの巨樹に対するイメージは「大きな木ですね！」・・・それで結構です。巨樹とは、極めて大きい樹木のことですが、巨木、大樹などとも呼ばれています。

ただ、大きな樹木と言っても、どの程度のレベルか決めないと話が進みませんので、取り合えず、巨樹の定義につきまして紹介します。

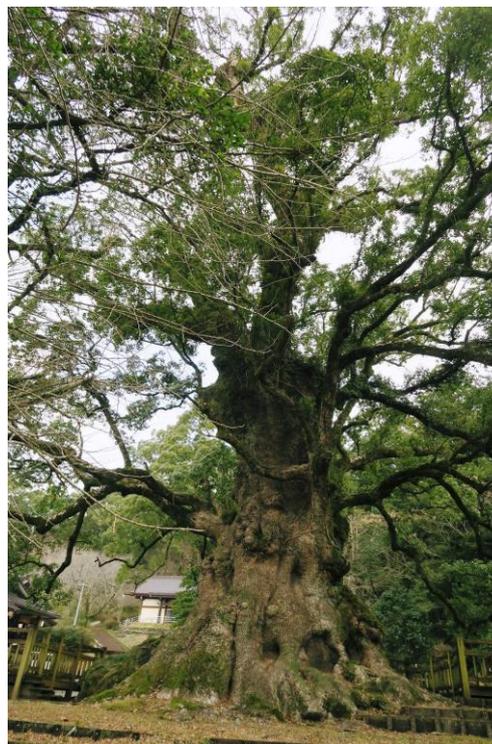
1988年、環境省（当時は環境庁）では、国民と歴史的時間を共有する悠久の象徴である巨樹について、子孫に引き継ぐストックとして自然環境保全施策に盛り込み、自然環境保全基礎調査の一環として巨樹の調査が開始されることになり、この時、調査基準として巨樹とは「地上から130cmの位置での幹周りが3m以上の樹木」としました。従いまして、樹齢が何年とか、樹高が何mとか関係なく、単純に幹周りの大きさで決めました。

然しながら樹種によっては、成長状態が異なるため、幹周りが3m以下でも、一部の樹種については巨樹の仲間に入れることになりました。

環境省では1988年から全国にて巨樹の調査を始めており、現在では、約7万本の巨樹が登録されております。

ところで、巨樹の本数が多い都道府県はどこだと思つていませんか？何と東京都です。次いで茨城県、千葉県の間となつております。東京都が1位とは以外に感じるかもしれませんが、都内の神社、植物園、公園にも巨樹は沢山あり、また奥多摩地区、伊豆七島にも巨樹は多いです。何と新宿御苑内には、300本以上の巨樹があります。

さて、今回は志木市内の巨樹を観て行きたいと思つております。



蒲生の大クス（日本一の巨樹）

### 編集後記

◇最近のエコシティ志木は、いろいろなことに意欲的に取り組んでおります。活動の様子は、ブログにも掲載しておりますので、併せてごらんください。95号からは、会員のご紹介をさせていただくことにしました。また、当ページにて、本間 敏文副代表による新シリーズ「巨樹」が始まりました。お楽しみください。（青木 明雄）

### エコシティ志木通信

第95号 2019年9月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338（天田眞）

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail [eco-shiki@ff.e-mansion.com](mailto:eco-shiki@ff.e-mansion.com)